

■■雨は降るや降らざるや■■

夏の雨は厄介だ。降れば湿度が急上昇し、その割に気温は下がらないから雨に濡れなくても汗でびしょりになりかねない。降り方も激しく参加者も薄着なだけに、下手な防雨をしても結局ずぶ濡れになることも多い。その上、濡れても冬ほど寒くないのでつつい着替えを怠って体調を崩すケースも珍しくない。

夏の雨を迎える心構えは、思い切って濡れるのを前提にするか、絶対に濡れないことを誓うかの二択である。どちらにしても相應の準備と対策が必要になるので、当日までにしっかりコンセプトを決めておこう。

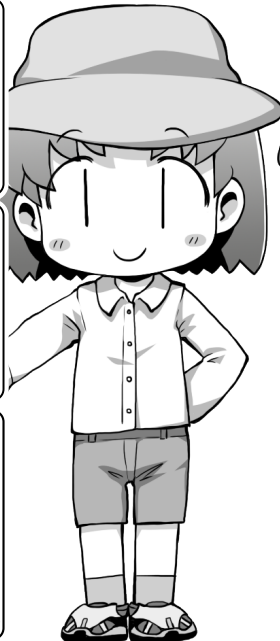
濡れるの前提仕様

待機列には並ばないか、並んでもごく短時間という参加者向け。突発的な雨の際に最低限対応できる装備ではあるが、着替はしっかり用意しておこう。

衣服は薄いものを重ね着し、1枚ごとの間に空気の層を作るようにする。トータルで濡れても水を残さず、乾きやすい化繊のウェアで固めよう。

ごく薄い素材でも雨を完全にシャットアウトでき、使わない時はコンパクトに収納できるアウトドア用のウインドブレーカー（ヤッケ）が防御の要。

ズボンにはポリエステル系の化繊を多く使った極力薄く軽いもの、スカートは濡れても透けたり脚に張りついたりしないものを選ぼう（その場合でも下にスパッツやショートパンツなどを履いておこう）。



絶対濡れない仕様

入場待機列も販売待機列も長時間上等！という参加者向け。本格的な雨にも対応できる装備をいかに館内でも不快や迷惑にならないよう持ち込むかが鍵。

基本となる衣服はできるだけ軽装に。高性能な透湿速乾素材のTシャツ（できれば長袖）と、男女問わず脚の動きを妨げない軽い化繊のパンツは必須。

透湿防水素材という服の内側の湿気を外側に放出しつつ、外側に当たる雨は一切通さない素材を使用したジャケットを着込んで行けば館内に入る時もその表面をざっとタオルなどでぬぐって前を開けば良い。

タオルは雨具を拭いたり、雨具の中で首にかけて汗止めにしたりとよく使う。フェイスタオルを複数枚持って行き、常に乾いた状態を保つこと。



●突発的な雨に備えて

・濡れない仕様で望む参加者以外は荷物ごと身体をすっぽり覆えて、通気性も良いポンチョは念のための装備として荷物に加えておこう。よくある白い半透明の雨カッパは着てもその内側に湿気が籠って結局服がずぶ濡れに、ということがままあるのでオススメできない。

・日除けとしても使える大判のスポーツタオル、肌着・下着・靴下の替えは必須。

そして自分は濡れても大切な戦利品は濡らさないようバッグはとにかくきちんとした防水性能を持ったものを。念には念を入れて、戦利品はビニールの袋やプラケースに入れてからバッグにin。

念のために何かと使える45リットルビニール袋を何枚かバッグに入れておこう。

●濡れたくないなら『透湿防水素材』の性能を活かせ●

上の囲みにも挙げたが、透湿防水素材のポイントは服の内側の湿気を外に逃がす機能にある。それを活かすためには、その下に何枚も着こまないことと、購入時に本格的なものを選びすぎないことだ。透湿防水素材のレインウェアは本来登山などのヘビーなアウトドア活動用のため、それなりに保温性能も備えていて夏コミの環境では少々オーバースペックだ。「え？こんなにべらべらでいいの?」と感じるくらいのもので十分なので、購入時に欲張り過ぎないこと。

1時間以上の待機を想定するなら、ズボンもセットになったものかレインコートタイプの裾の長いものが望ましい。会場に入ったらズボンは脱げばいいのだ（そういった着替えなら入場してから移動者の邪魔にならないよう少し離れた場所で行えば、わざわざ更衣室を使用しなくてもよい）。